

# 読書感想文紹介

美作地区 高校生  
読後感想文コンクール

優秀作品

## 『太陽の Pasta、豆のスープ』 を読んで

岡山県立津山高等学校  
二年 岡本 優子

この本の主人公、あすはは結婚を解消され、仕事にも意味を見出せなかった女性だ。そんな彼女に叔母が「ドリフターズ・リスト」を書くことを提案する。ドリフターズ・リストとは漂流者(ドリフターズ)のためのリスト。私はこのリストのことが気になってこの本を読んだ。

漂流者とはどんな人のことを指すのかを具体的に書かれてはいないが、私は人生の中で漂流している人、ことを指すのではないかと感じた。すると、一気に親近感が湧き、自分のことだと感じた。私は高校生になってから、毎日部活や勉強、人間関係をすべて上手くやろうとして、時々何をやるのも嫌になって落ち込むことがある。将来のことなども不安

たいことがたくさんあるのだと改めて気づくと、自分に自信がついた。すぐに実現できる内容は少ないので、実現に向かって努力しなければならぬけれど、自分なら頑張ることが出来るはずだと思い始めた。

また、主人公の言葉「私が選ぶもので私はずっと居る」というのが心に残った。私が今感じる嬉しいことやつらいことは、高校を選んで科目を選んで、部活動を選んだことの結果だ。私はこれらの選択に後悔はしていない。楽しい、嬉しいと感じることの方が多からう。つらいことばかりを見つめるのではなく、視点を変えてプラスになることを考えていけば、頑張り続けることができる気がする。それでも無理だと感じた時は、またドリフターズ・リストを作ってみようと思った。

自分が欲しているものを書き出し、それを手に入れるために何をすればよいか整理する。結局選ぶのは自分だけだ、時々立ち止まってリストに書き上げてみることで、あてもなく漂流する虚しさを味わわなくてもよいのであれば、とても良い方法だと私は思う。

# 青少年読書感想文 岡山県コンクール

佳作作品

## 『物語の仏陀』 を読んで

岡山県立津山高等学校  
二年 下山 千遙

この本を読んだきっかけは、図書館だ。別の本を探している最中にタイトルが目に入り、「何となく聞いたことがある」と思い手に取った。その「何となく聞いた」印象と表紙の写真、最初の二、三ページから、その本が今まで読んだことがなくまた興味を持ったことがないジャンルのものであるということが分かった。

この本は、著者がアジアの諸国を放浪しそこで見た事柄をまとめたものである。この本では八つの発展途上国について書かれている。私は地理的知識が乏しく、どの国がどこにあるのか、またその国がどんな場所であるのか、どのような状況に置かれているのかをほとんど知らなかった。だから、その八つの国名を目次で見た時には「貧しい国々」としか思わなかった。八つの国がどの点で違っているかなど考えもせずに全てを一掃くたにして考えていた。

筆者の放浪の目的は、アジア諸国の障がい者の状況がどのようなものかを見ることだった。放浪中に持っていたのは多少の金と健康な肉体だけだった。この本の中に登場する障がい者の多くは身体障がい者だ。先天的な病気や小児マヒ、戦時中の空爆や戦後に未回収のまま放置された不発弾の暴発など、障がいを持つ理由も様々だ。その人達の中にも働く者と働かない者(働けない者)がいる。筆者が接触した働く者の多くは、乞食を仕事としている。乞食が職業、というのに最初私は違和感を持った。そもそも乞食とはどういうものなのか、それすら曖昧なイメージしか持っていなかった。発展途上国は国自体が先進国よりも貧しい。それ故に福祉が充実しておらず、日本のような生活保護制度や障がい者へのサポートなどが無い。したがって障がい者が生活するために、家族が養うか自分で金を得るかの二択しかないのだ。乞食は生きる為に行う最後の手段なのである。自身の姿を見せつけて金を乞い、憐れみを受けて恵んでもらう。その人達はどんな気持ちであろうか、自分が同じ状況ならば同じことができるだろうか、と少し考えたがすぐにやめてしまった。実際にそのような状況を見たことすら無い、この豊かな国で

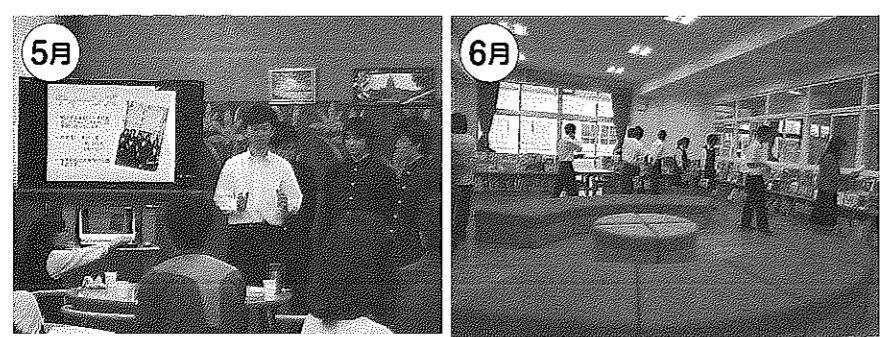
ぬくぬくと育った私などには到底分かるはずがないのだから。

この本の中で印象に残ったエピソードが二つある。一つは、ラオスのシユンクワン県に筆者が訪れた時のことだ。かつての激戦区であり、今も不発弾がゴロゴロ転がっているというその地域の、一人の障がい者の男に筆者は話を聞きに行く。その人は空爆で手首を失ったが、村で農作業と教師の仕事をしているのだ。障がいがあっても強く生きていく、ではない。周りの友人らが彼をよく理解しており、「気を遣う」でなく「役割分担」として彼に出来る仕事を頼むのだという。この関係性が、私はとても羨ましいと思った。もちろん、お互いに不満が全く無い訳ではないだろうし、不都合も少しは起こるだろう。しかし双方が理解しあっているから成立する、気を遣わない関係性のおかげで彼は笑って過ごせるのだそう。また、これは助け合いなしでは生きていけない状況だからこそ成立するものなのかもしれない。だとすれば、助け合わなくてもある程度生活できる場所にいる私はどうだろうか。環境が必要としていなくても、自分の意識によってそのような理想的な関係を築けるだろうか。

もう一つは、インドの経済都市ボンベイでのエピソードだ。ここに登場する障がい者達は他の場所のそれとは違う。現地のマフィアによって

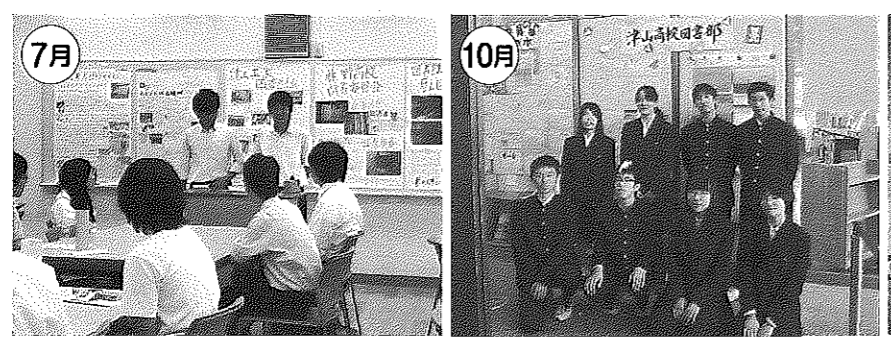
手足を切り落とされ、作務的に障がい者となった人々なのである。マフィアは彼らに乞食をさせ、稼ぎの大半を奪っていく。この場面が描写されている内容は、文面で見ただけでもとても惨たらしいものだった。本を読む時、大抵はその場面を頭の中で想像しながら読むのだと思う。しかしこの場面を読んでいる時は、それができなかった。しようとして恐怖の方が勝ってしまった。そんな風に都合良く本の中の現実を見ないようにする自分が卑怯だとも思った。しかし、想像できたとして私に今何が出来るだろう。マフィアは好きでそんな残酷なことを行うのではない。金のために行うのだ。マフィアにこの行為を止めさせるには国自体が豊かになる他ない。もちろん個人にそんな力は到底無い。私ができるのは、物語の一部のような残酷な行為が実際に存在すると知ることのみだ。

この本を読んで、発展途上国で生きる障がい者の凄絶な人生の一部分を知ることができたと思う。人生に悲嘆する人もいれば、その日を生きて抜くため必死にもがく人もいるということも知った。私はどちら側の人間か。それは私と彼らと同じように苦境に立たされたい限り分らないかもしれない。しかし、今現在自分が立っているこの状況の中でなら考えられるはずだ。私は、この中で精一杯生きていきたい。

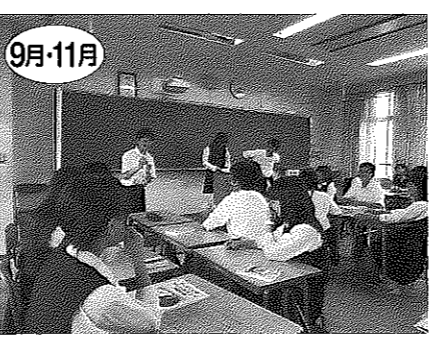


①H26年度学生交流会 (図書部)  
津山工業高等専門学校、美作大学の図書ボランティア、津山高校図書部が集まり、活動計画の発表や本を使ったクイズ大会を行いました。

②美作高校図書館見学 (図書部)  
美作高校の先生が、図書館内を丁寧に案内して下さいました。津山高校とは、また違った図書館の様子を見ることができ、良い経験になりました。



③H26年度美作地区委員会交流会 (文化委員会)  
美作地区の高校・5校が参加し、委員会活動の紹介や、色をイメージする本を探して行くというワークショップを行いました。



⑤HR読書会 (文化委員会)  
1年生は「ピブリオバトル」、2年生は「物語の続きを考える」ということを行いました。クラスメイトと本を通じた、交流を持つことができました。



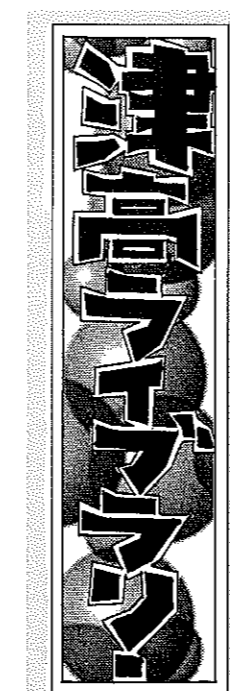
④岡山県立図書館ティーンズコーナー企画展示 (図書部)  
テーマを「あさのあつこさん特集」とし、あさのあつこさんと本人にインタビューしたり、バッテリーの舞台を訪ねたりした様子をまとめ、展示しました。

**図書部**

一九〇二年、文学部の希望により図書部を図書館に設立する。  
第二次世界大戦勃発時、すべての図書館活動を休止され、建物は軍に供されて地層研究所となり、重要図書は生徒・教員の家に配分・保管される。  
終戦直後、暴風で一部図書は水難にあい、国粹主義的な書物は占領軍により破壊される。  
男女共学になってからは図書部(図書・新聞・放送部の総称)となる。読書週刊には校内で映画を上映したり、映画の学生割引券を取り扱う。一九六五年、図書部から独立し、図書部になる。

**社会部**

設立は戦後しばらく後。部室は橋高下校舎の旧武器庫の一隅であった。  
一九五〇年、佐良山中宮一号墳の発掘のお手伝いをする。  
一九五一年、時事問題研究部、歴史研究部、地域研究部に分裂する。しかし一九五九年再び合併する。



**社会問題研究部**

津山市内のある高校で一つの差別事件が起こり、それを機に部落問題への意識が高まり、一九六〇年代、美作地区の各高校に部落問題研究部が設立される。  
初めは、ベトナム問題や米国の黒人差別などを研究課題としていた。しかし、女子部員から「外国の差別問題より日本の差別問題を研究しよう」という提案があり、男子部員は反対したが「部落問題を取り上げないなら退部する」と女子部員は抵抗し、一九六六年の課題研究はベトナム問題と部落問題に決まる。  
結局、一九六九年部落問題は部落問題研究同好会として独立、一九七二年に部落問題研究部に昇格し、その後社会問題研究部に改名する。

**物理部**

一九四八年、礼文島での金環日食

**生物部**

一九三〇年、陸軍特別大演習で昭和天皇が中国地区に幸せられた際、生物部に造詣の深い天皇に献上するため

をきっかけに有志により「物理部天文班」が発足する。  
一九五〇年、男女共学になってからは「地学班」として新発足する。  
一方、電気・ラジオ・電波等の研究を主としていた「科学部ラジオ班」だが、機材が高額のため個人的研究にとどまらざるを得なかった。  
一九五三年にはラジオ班の名は消え、「科学部物理班」として新発足している。  
このように地学班、物理班はそれぞれ活動の分野を分けていたが、一九五三年、地学の人気は低下し地学班は活動の重点を天文に置くようになる。  
やがて一九五九年、地学班と物理班は合併して「物理部」となる。  
主な活動としては、流星・隕点日食等の観測、断層や鍾乳洞の調査研究、校内放送設備の自作などがある。  
その後も部内に「アマチュア無線クラブ」や「パソコン研究班」が生まれるなど多彩な研究を続ける。  
ちなみに十六夜祭での自作プラネタリウムを使っていた天体説明は部創設時から伝統である。

岡山県津山市橋高下  
津山高校 図書部  
TEL 22-2204  
津山朝日印刷部  
津山市田部町  
TEL 22-3135  
(印刷部)

**国防訓練部**

△滑空班▽  
一九三八年、文部省が航空思想の普及とパイロット養成を目的とした国の方針から各中学校に滑空部を設けることを推奨したため設立される。訓練の内容としては、操縦する者は操縦席に座り、操縦桿を握ってフットペダルに両足をかける。  
主翼の両端を持って機を水平に保つ者二人、機を射出するため約二十メートルの二本のゴム索を引くために十余名、飛び終わった機体を元の位置に戻す者、号令をかける者など、

下生徒・児童十三万人を総動員し県内の植物・蝶・蛾を採集、分類し標本を作った。  
これにより生物学への関心が高まるが部発足までは至らなかった。  
一九四九年、科学部の中の「生物班」として発足。  
夏休みの研修旅行は主に山陰海岸であったが、瀬戸内の本島では不慣れから一人の生徒が潮に流され、あわやというところで漁船に助けられて事なきを得たというところもある。  
解剖実験ではヘビ・カエル・ネズミなどがよく用いられるが、犬の解剖というのもあった。  
「生物部は残虐者の集まりであるかのように思われているが、ちゃんと目標を持って行っている。(中略)研究目標達成のためには、多少の犠牲もやむをえない」(学園新聞「六十号」)  
なお、ときにはカエルの焼肉、カタツムリのつぼ焼きに舌鼓を打つのもこの部ならではの活動だ。

一人の滑空に二十名近くの者が必要であった。  
高度はせいぜい十米(メートル)、時間十秒ほどの滑空に過ぎない。  
一人ずつ順番に乗って部員全員が汗を流すのである。  
部員全員に二級滑空士の免許を取らせようと校長の意向から県下で初めて中級機を買い入れるが、終戦後間もなく占領軍の命令によってグライダーは焼却処分される。  
木と布の軽々とした機体は炎に包まれ、長い煙の帯となって大空に飛び立った。  
だが、グライダーによって育まれた大空への憧憬が部員の心から消えることはない。

**△国防競技▽**  
昭和一〇年代、すべては戦争のためであった。  
陸上競技も例外ではありえず、実戦を前提としたものが求められた。  
一九三九年、西大寺グラウンドで国防競技選手選が開かれる。  
参加校七十余校生徒千数百名、県下の競技会では未曾有の盛大さだったぞうだ。  
国防競技の種目には土囊運搬競争のほか行軍競争、障害通過競争、手榴弾投擲突撃などがあるがこれらの種目総得点二十二点で優勝し、うち土囊運搬チームは第十回明治神宮国民体育大会に県代表で出場した。  
二位を引き離すこと二十米。  
しかし後十米のところで転倒してしまった。  
この大会で関西中学・勝間田農林との連合で索引競争、行軍競争を戦い全国二位を獲得している。

編集をほぼ部員にまかせっきりの部長が編集後記を書かせていただきました。  
今年(一〇四年)はUSBメモリーの中から製作中の原稿が突然なくなるといふアクシデントに見舞われましたが無事に完成しました。最後のページは一年にすべて任せていましたが、協力して作成していたので、図書部の未来は安泰だなと思えます。  
今回のライブラリーでは図書部の独断と偏見で選んだ面白そうな部活を紹介していきますので、「津高には昔、こんな面白い部活があったんだ!!」と思ってもらえたらうれしいです。編集後記の最後まで読んで下さりありがとうございました。

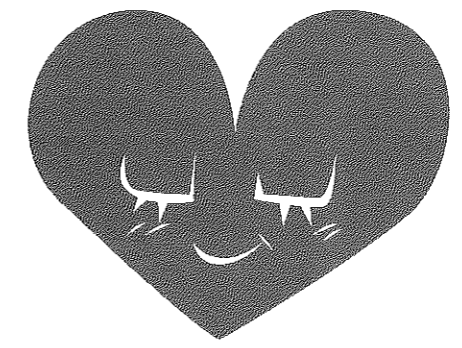
編集をほぼ部員にまかせっきりの部長が編集後記を書かせていただきました。  
今年(一〇四年)はUSBメモリーの中から製作中の原稿が突然なくなるといふアクシデントに見舞われましたが無事に完成しました。最後のページは一年にすべて任せていましたが、協力して作成していたので、図書部の未来は安泰だなと思えます。  
今回のライブラリーでは図書部の独断と偏見で選んだ面白そうな部活を紹介していきますので、「津高には昔、こんな面白い部活があったんだ!!」と思ってもらえたらうれしいです。編集後記の最後まで読んで下さりありがとうございました。

**映画化された本**

図書部二年プレゼント  
映画化された小説&マンガ the 2014

**銀の匙**

進学校から農業高校に進学してきたアイドル Sexy Zoneの中島健人演じる、主人公・八軒勇吾。突然クラスメイトの駒場が、学校を辞めることに。もう一人のクラスメイト御影は実家を継ぐか馬の仕事に就くかで揺れていた。  
しかし、家族に言えず、飼っていた馬を手放す羽目に...  
そんな二人を励ますため、八軒が学祭でばんえい競馬をする。  
そして、ばんえい競馬で御影の祖父のシルバースプーン号が...?



**近キヨリ恋愛**

成績学年No.1の天才女子高生桜木ゆにが山下智久演じる最強男前英語ツンデレ教師櫻井ハルカに二人っきりの特別補修授業を言い渡されてしまう。  
ハルカに強がっている自分を見抜かれ、心を乱されていく...

**偉大なるしゅららぼん**

濱田岳、岡田将生のW主演で実写化された。時は現代、所は滋賀県。濱田岳ら演じる日出家という名家は代々、不思議な力(マインドコントロールetc...)が使える。  
その力によって厄介ごとが厄介ごとを呼び...最後の意外なラストを刮目せよ!!!  
そして「しゅららぼん」の意味とは...?



**編集後記**

編集をほぼ部員にまかせっきりの部長が編集後記を書かせていただきました。  
今年(一〇四年)はUSBメモリーの中から製作中の原稿が突然なくなるといふアクシデントに見舞われましたが無事に完成しました。最後のページは一年にすべて任せていましたが、協力して作成していたので、図書部の未来は安泰だなと思えます。  
今回のライブラリーでは図書部の独断と偏見で選んだ面白そうな部活を紹介していきますので、「津高には昔、こんな面白い部活があったんだ!!」と思ってもらえたらうれしいです。編集後記の最後まで読んで下さりありがとうございました。